

「女性がつくった経済学・経済空間」

東京都立大学では、2018年4月より大学院教育として経済学プログラム（修士）を開始し、社会人も学べるように、主として丸の内サテライトキャンパスで夜間に授業を開講しています。

今年度は、「女性がつくった経済学/空間」をテーマとして以下のシンポジウムを開催します。

- ・ 日時：2024年11月16日（土） 14:00～17:00
- ・ 会場：AP東京丸の内3F 及びオンラインウェビナー（Zoom）
- ・ 参加費：無料（事前登録が必要です）

11.16 Sat

14:00-17:00 *13:30開場



湯澤 規子

法政大学人間環境学部 教授

<講演1>

経済学の指針としての「家政学」の再考

～源流としてのヒューマンエコロジーとエレン・スワロウ・リチャーズ

<講演2>

ケインズの女性学位問題

～大学における効率性と公共目的

小峯 敦

法政大学法学部政治学科 教授



【お申し込み・お問い合わせ】

事前の参加登録が必要です。

（AP東京、Zoom共。AP東京会場は先着60名様）

ご希望の方は以下のWEBページまたはQR
コードよりお申し込みください。

<https://forms.gle/4USkAA8RiJ5dvGnQ6>



※裏面もご覧ください

「女性がつくった経済学・経済空間」 詳細

<プログラム>

司会：井澤 龍（東京都立大学大学院 経営学専攻経済学プログラム）

14:00 開会のあいさつ 森 治憲（東京都立大学大学院 経営学専攻長）

14:10 ◆講演1「経済学の指針としての「家政学」の再考

～源流としてのヒューマンエコロジーとエレン・スワロウ・リチャーズ～

湯澤 規子 氏（法政大学人間環境学部 教授）

女性は経済学や経済空間には直接関与していないと思われるがちです。それはなぜなのでしょう。私たちが一般に「経済」という言葉を使う時、それはどのような意味を含んでいるのでしょうか。

経済を意味するエコノミーの語源をたどると、それはオイコス（家）とノモス（法）にたどり着きます。ということは、じつは「家政」が経済の原点にあるといえます。しかも、「家政」は人間社会だけでなく、人間と自然との関係までもを含めたかなり広い射程を持つ概念なのです。

したがって、「家政」の源流をたどれば、ダイバーシティや男女共同参画社会の実現が求められる現代社会への示唆が得られるかもしれません。本報告では、アメリカ合衆国における家政学の祖といわれるエレン・スワロウ・リチャーズが提唱した「ヒューマンエコロジー」の意味と内容を参照しながら、未来の経済学の指針となりうる「家政学」の再考と再評価を試みたいと思います。

討論者：岩間 俊彦（東京都立大学大学院 経営学専攻経済学プログラム）

（講演45分/ディスカッション10分/質疑応答10分/計65分）

15:15 ～休憩～

15:20 ◆講演2「ケインズの女性学位問題～大学における効率性と公共目的」

小峯 敦 氏（法政大学法学部政治学科 教授）

この発表では、およそ100年前、伝統ある大学で女性がどのような地位にいて、著名な経済学者J. M.ケインズがその現状をどう改善しようと奮闘したかを論じます。

場所はケンブリッジ大学、論題は女性に正式学位を認めるかです。ここでは三層に分けた考察を進めます。第一に、ケインズを取り巻く女性たちの活躍、第二に、不合理を廃す実務家ケインズの活動、そして第三に、ケインズの理想とする社会像・組織論です。この発表では、大学行政官という実務家の経験とその経済思想が密接に関係しており、同時に、このトピックを追究することで、大学における効率性と公共目的という普遍的な課題に教訓を与えられる、と論じます。

討論者：金子 創（東京都立大学大学院 経営学専攻経済学プログラム）

（講演45分/ディスカッション10分/質疑応答10分/計65分）

16:25 ～休憩～

16:30 インタラクティブセッション

16:45 東京都立大学大学院 経済学プログラムのご案内

17:00 閉会

program



<会場アクセス>

最寄駅：地下鉄大手町駅D6出口直結

東京都千代田区丸の内1-1-3

日本生命丸の内ガーデンタワー 3F

お申し込み・お問い合わせ

事前の参加登録が必要です。

（AP東京、Zoom共。AP東京会場は先着60名様）

ご希望の方は以下のWEBページまたはQRコードよりお申し込みください。

<https://forms.gle/4USkAA8RiJ5dvGnQ6>

【お問い合わせ】

skaneko@tmu.ac.jp（担当：金子）



※表面もご覧ください